



スポGOMI 甲子園・大分東明高チーム



スポGOMI 甲子園で日本一に輝いた（左から）服部真周さん、久枝史弥さん、梅田翔希さん＝大分市千代町の大分東明高

拾って集めて 日本一つかむ

【大分】大分市千代町の大分東明高3年生チームが「スポGOMI甲子園」全国大会（11月・東京都）で日本一に輝いた。ごみ拾いとスポーツを融合した競技で、県勢の優勝は初めて。「どこでも誰でも楽しみながら取り組めるのが魅力。今後も活動を続けた」と話している。

スポGOMIは3人一組で制限時間内に規定エリアのごみを拾い、量や種類に応じた得点を競う。2008年に日本で始まった。高校生対象の甲子園は日本財団「海と日本プロジェクト」の一環で5回目。今年度の競技エリアは東京・墨田区の東京スカイツリー周辺。小雨の降る厳しい寒さの中、各都道府県の代表40チームが奮闘した。大分東明チームは服部真周さん（18）、久枝史弥さん（18）、梅田翔希さん（18）。県大会（8月・大分市）で優勝し、2年連続で全国切符を射止めた。「昨年は6位。悔しさをばねに作戦を

「活動当たり前の社会、願う」

練った」と3人。スマートフォンでの地図アプリを活用し、住宅街の路地やコインパーキングを中心に回った。自動販売機横のごみ箱からあふれた缶やペットボトルを大量に拾ったのが勝因という。回収したごみの総重量は32・65キ、獲得ポイントは4328・5。2位に約500ポイントの大差をつけての圧勝だった。久枝さんはスポGOMIに取り組むようになり、環境に対する意識が変わった。活動が世界に広がり、リサイクルに取り組む企業が増えるといいと期待する。梅田さんは「スポGOMIワールドカップ日本ステーション」（10月・東京）にも出場した。「最初は面倒と思っても楽しく、やりがいを感じる。ボランティア活動に抵抗がなくなった」。服部さんは昨年2月、高校生団体「クリーンエイト」を設立し、ごみ拾いに取り組んだ。「一人一人の小さな行動が未来を変える。スポGOMIが当たり前の世の中になってほしい」と願っている。（藤沢香）



記事をよく読んで、問①～⑤に答えましょう。問⑤は自分で考えてみましょう。

〔問①〕「スポGOMI」はごみ拾いとスポーツを融合した競技ですが、大分東明高3年生チームはどのようなところが魅力と話していますか。

答え 【 どこでも誰でも楽しみながら取り組めること 】

〔問②〕大分東明高3年生チームが今年の全国大会で練った作戦で勝因となった行動は何ですか。記事の中から全部書き出しましょう。

答え 【 スマートフォンの地図アプリを活用し、住宅街の路地やコインパーキングを中心に回った。自動販売機横のごみ箱からあふれた缶やペットボトルを大量に拾った 】

〔問③〕下の文章の（ ）の中に適切な数字を入れて文を完成させましょう。

答え 【 優勝した大分東明高3年生チームが回収したごみの総重量は (32.65) キロで、獲得ポイントは (4328.5) ポイントでした。2位に約 (500) ポイントの大差をつけました。 】

〔問④〕服部さんはどんなことが未来を変えると言っていますか。

答え 【 一人一人の小さな行動 】

〔問⑤〕環境を守るために、あなたができる、またはいつも取り組んでいる行動は何ですか。

※自由記述